

適切である。

転移性脳腫瘍に対する最良の治療は、腫瘍組織の放射線感受性や化学療法への反応性、原発巣の状況や他部位への転移の状況、脳転移以外に対するその後の治療方針、脳転移の局在による症状、年齢や患者自身の気持ちなどにより、異なるものであり、可能な限りに全身評価を行った上で、様々な治療方法を提示して選択できる個別化医療をめざすべきである。

脳幹部拡散強調背景信号抑制 (DWIBS: Diffusion weighted Whole body imaging with Background signal Suppression) 法による全身評価の有用性も呈示した。

19 新しい塞栓物質 Onyx の特性と適応

伊藤 靖・反町 隆俊・西野 和彦
新保 淳輔・藤井 幸彦

新潟大学脳研究所脳神経外科

脳動静脈奇形に対する脳血管内手術は、液体塞栓物質である NBCA を用いた塞栓術が以前より

行われてきた。しかし本邦において NBCA は薬事承認されておらず、off label の治療であった。このたび液体塞栓物質である Onyx が本邦においても薬事承認され、臨床使用が可能となったのでその特性、適応を概説する。

Onyx は析出型塞栓物質で、溶質は Ethylene Vinyl Alcohol Polymer、溶媒は DMSO、tantalum powder により X 線視認性を得ている。NBCA と異なり非接着性で長時間の注入が可能である。Plug & push という注入方法を用いることにより NBCA では達し得なかった高い塞栓率を得ることができる。ただし溶媒として DMSO を使用しているため、使用可能なマイクロカテーテルに制限がある。また現在の適応は AVM の外科手術前塞栓術となっている。

Onyx は NBCA と性格の異なる塞栓物質であり、厳格な実施医、指導医基準、研修プログラムが適応されている。この新たな塞栓物質に習熟することで、AVM embolization の治療成績のさらなる向上が期待される。